
税理士 無料公開講座シリーズ Season 3

～ テーマ ～

『ここが間違っている！理論勉強方法』

－ 理論暗記の功罪 －

TAC 税理士講座

平成22年4月10日

担当：青木 岳人



●法人税の本試験では何が求められているか？

国税庁 出題のポイント抜粋

◆法人税

第59回	法人税法における基本的な制度に関し、具体的な事例への適用についての問いかけを行い、法令が理論的に正しく解釈・適用されているかどうかという対応能力を問うこととしている。
------	---

第58回	法人税法における基本的な制度を理解し、具体的な事例に正しく適用することができるかどうかという対応能力を問うこととしている。
------	---

◆所得税

第59回	＜問1＞ 本問は、上場株式等に係る配当所得、上場株式等に係る譲渡所得等について、課税方式、損益通算及び譲渡損失の繰越控除などについて、正確に理解しているかどうか問うものである。
	＜問2＞ 本問は、様々な利子収入について、所得区分や課税方式、非課税とされる利子について、正確に理解しているかどうか問うものである。

◆消費税

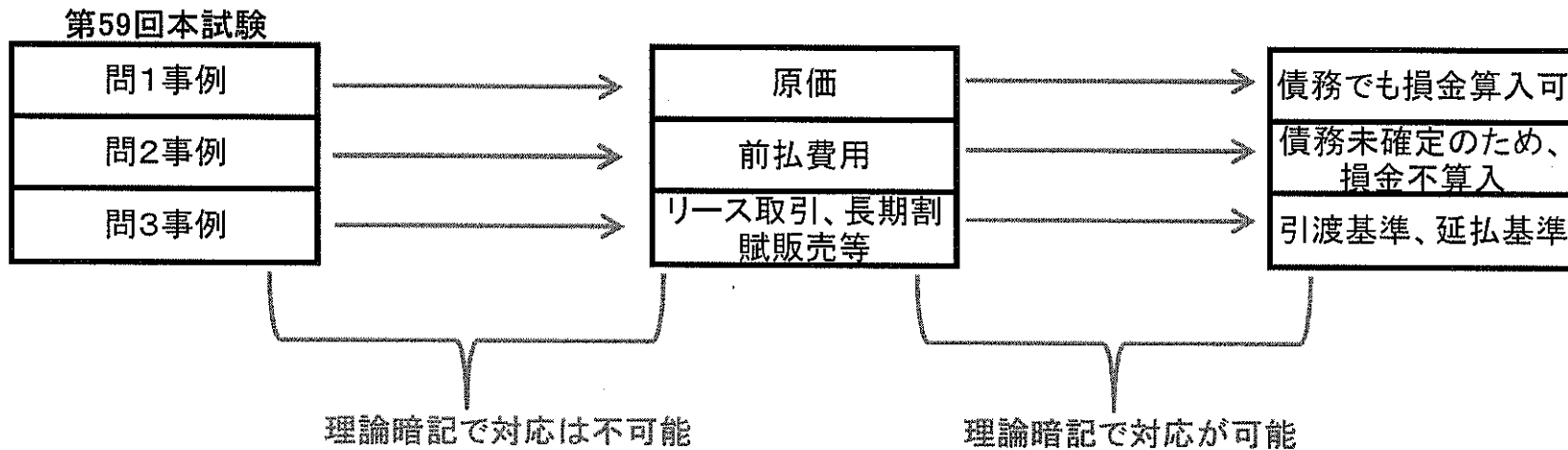
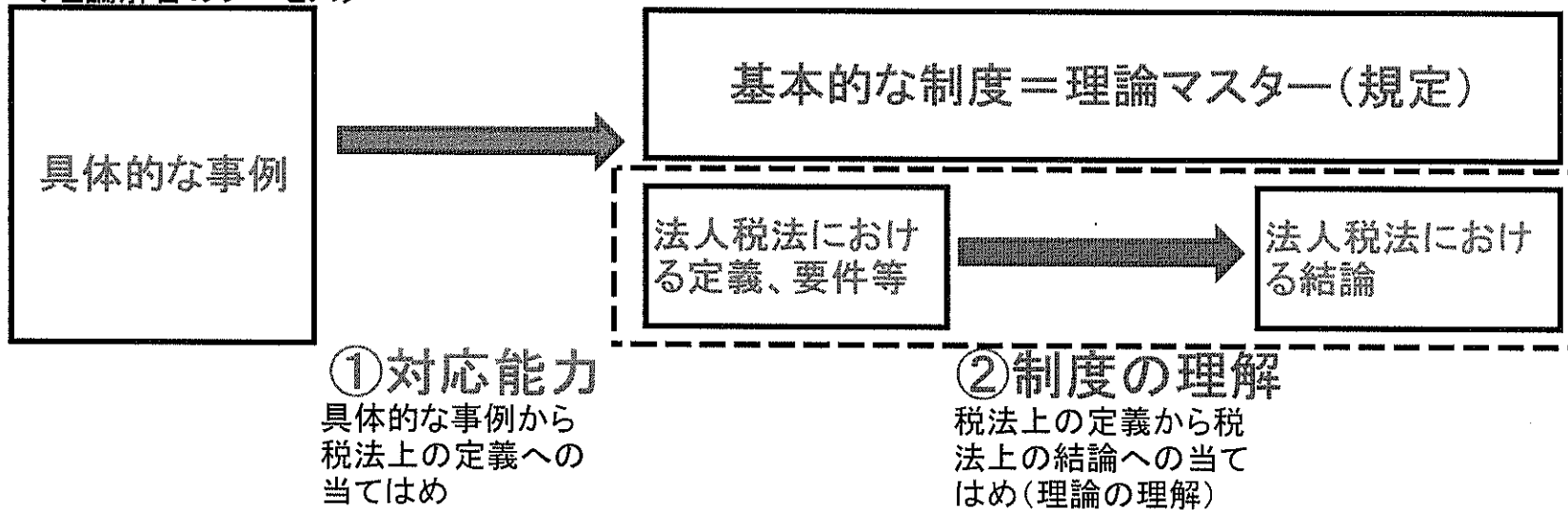
第59回	＜問1＞ 本問は、売上げに係る対価の返還等を行った場合の消費税額の控除について正しく理解しているかどうかを問うものである。
	＜問2＞ 制度の適用要件等を正しく理解し、事例に応じて必要な届出手続を探ることができるかどうかを問うものである。

◆相続税

第59回	＜問1＞ 本問は、実務上、重要なこれらの規定について、それぞれの内容及び適用要件について説明を求めるものである。
	＜問2＞ 本問では、このような相続税固有の申告等の手続き及び納税義務者の態様別の課税関係を理解しているかどうかを具体的な設例に即して説明を求めるものである。

●理論(条文)の暗記のみで合格できるかどうか？

<理論解答のプロセス>



●理論暗記は必ず必要なの？

法令を直接問われていない問題なら必ずしも理論暗記は必要ない



制度の理解があれば合格は可能(ただし、暗記＋理解＞理解)



制度の理解とはどのような状態か？



法人税法上の定義を結論に導くことができればそれが理解をしている状態



具体的には理論(条文)のフローチャートの作成が出来れば良い

●対応能力はどうすれば身につくのか？

事例の対応能力は、理論暗記では身に付かず、多くの事例に慣れる必要がある。
事例を慣れるための教材として、以下のものがある。

◆計算の問題

計算の問題は、基本的な事例問題であり、算式に当てはめる前の知識は理論の対応能力を補完してくれる。(特に給与の定期同額給与等の区分は必須の知識)

◆質疑応答事例(第59回本試験の問3において出題実績あり)

質疑応答事例は、ある事例に関して、納税者にとって法令への当てはめに疑問がある項目を、国税庁側が根拠を示しつつ応答するものであり、対応能力を磨くためには、非常に有用である。

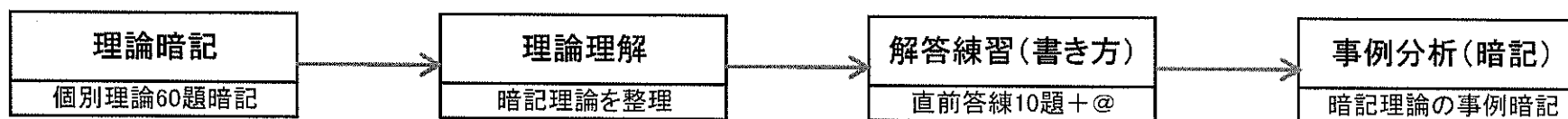
◆判例(第59回本試験の問1において出題実績あり)

判例は、ある事例に関して、納税者側と課税庁側の争いを裁判所が法令に基づく判断を示すものであり、法律論としての対応能力を磨くために有用である。

●合格するためにどのような勉強をすれば良いのか？

1年間という短い期間で法人税のすべての規定につき、暗記をし、判例レベルの税法の解釈をして、答案作成能力を完成させるのは不可能に近いので、自ずと優先順位を決め、重要な規定から勉強しなければならない。

<従来の勉強方法>



<おすすめの勉強方法>

